

大阪版 外来種ハンドブックの発行とワークショップの開催



助成区分

植樹

環境保全

調査・研究

教育・啓蒙

実施状況

参加者数

34人

参加者満足度

100%

活動の全体目標に対する達成度

90%

活動目的

在来生物、特に希少生物を保護し、生物多様性を保全するためには外来種の侵入を防ぐ必要があるが、その生物の特徴や駆除の方法などをとりまとめた資料がない。そのため、自分の住んでいる地域に侵入してきた外来種を知り、効果的に駆除活動を推進するための小冊子を作成。環境保全活動を推進している団体への有益な情報提供として活用する。

活動内容

環境省や国土交通省が発行する外来生物の冊子類は、情報が古く生物の写真が不鮮明で同定しにくい。そこで、大阪のどこでも取り組める環境教育教材を作成。各団体指導者が説明しやすいよう、写真を多用して編集。原稿作成・写真提供は、当会メンバーが行った。さらに、教材の発表を兼ねた講座を開催。団体指導者が自分の地域に戻って駆除活動できるよう、外来生物の現状を概説した。講師は環境カウンセラー・大阪府職員・茨木市職員。



成果

A5・68ページ・フルカラーの図鑑を1000部作成。まずは編集に携わった25人を通じて300部を配布。10月19日、大阪府安威川ダム建設事務所との連携で講座を開催。参加者は34人。今後、当会が関わる講座やワークショップ等で教材として無料配布する予定。



工夫した点

生物の解説はシンプルにまとめて読みやすくした。特徴が一目で分かるよう写真とモノクロイラストからの引き出し線で解説。コラムは弁護士から法律情報、3人の博士からはそれぞれの研究分野での立場から執筆いただいた。また、学生3人の文章はフレッシュで熱い言葉が並んだ。さらに、猟師やカメ研究者の協力により、違う観点からの意見を出していただいた。送付した東京大学の教授からは「現場で携わる方の視点がわかって示唆に富む」とコメントをいただいた。

今後の課題

9月21日、淀川管内河川レンジャー事務局の会議室にて講座を開催する予定であったが、講師が急病のため延期となった。2020年3月7日に開催する予定で、現在、河川レンジャーと調整中。今回は大阪で確認されている生物を紹介したが、琵琶湖・淀川水系では確実に他の特定外来生物が広がっている。いち早く日本全国で自然保護活動しているリーダーに情報を伝え、在来種を守るための駆除活動につなげたい。